



郷土ちがさき

第166号

発行日 令和8年5月15日
 発行者 茅ヶ崎郷土会
 会長 平野文明
 編集 平野文明

- 【風 自由投稿】○図書館が活躍するSF：井出康夫 ○どんなも
 んぢやモンナワンナ：長谷川由美 ○スーパードコーナード：川
 村 恵 ○コッツウオルズとシエイクスピア川村美子… 25
 【調査・史料・資料・論考】○大岡忠相日記 野田 穂… 14
 【事業報告】○市内萩園・今宿探訪報告：平野文明
 ○萩園・今宿探訪参加の記：染谷倫人… 19

つつじが真つ盛りです。

ピンクの花と真紅(しんく)の花の二本がくっつけて植えられて
 います。花の色は違いますが名前はともに大盃(おおさかずき)。
 どこでもある普通のつつじです。

天気の良い日には蝶々が蜜を吸いに来ます。黒い大きな蝶が良く
 来ます。いかにもおいしそうに吸うので、私も一つ失敬して、盃
 の底の方を吸ってみました。

ピンクと真紅はときどきケンカをしています。ある日ピンクが言
 いました。「私は甘いよ」、負けずに真紅も言いました。「えっ、
 私の方が甘いよ」。すると蝶々がいました。「同じだよ」。

またある日ピンクがいました。「私のシャツはピンクなんだ」。
 すると真紅も言いました。「私のドレスは真つ赤だモン」。また
 蝶々がいました。「どちらもとてもきれいだよ」。

それから半月ほど経ちました。ピンクも真紅も花びらは枯れて同
 じ色になりました。どちらがピンクでどちらが真紅だったのか私
 にはわかりません。蝶々も来なくなりました。

― 四月二十日記

(茅ヶ崎郷土会々長 平野文明)

風

自由投稿欄

図書館が活躍するSF作品を訪ねる

〓四月二十日、茅ヶ崎市立図書館に感謝して

井出康夫

五月二十二日『スター・ウォーズ』がスクリーンに帰ってきま
す。一九七七年の第一作から約五〇年、銀河宇宙を舞台にどのよ
うな新たな物語が展開するのか楽しみます。

この『スター・ウォーズ』をはじめ多くの「銀河宇宙もの」に
影響を与えているのが、アイザック・アシモフ『銀河帝国の興亡』
です。この小説では図書館も重要な舞台であり、意外にもSF作
品には図書館の登場が多いと感じます。さる四月三十日は「図書
館記念日」でした。茅ヶ崎郷土会の活動で日頃から茅ヶ崎市立図
書館にお世話になっています。感謝の意を込め、図書館が活躍す
る著名なSF作品を訪ねます。

小説『銀河帝国の興亡』の銀河図書館

二十世紀の「三大SF作家」アイザック・アシモフの代表作が
『銀河帝国の興亡』（一九五一年からの三部作、一九八二年から
の続四部作）です。物語は、広大な銀河系宇宙を平和に治めた銀
河帝国の凋落の兆しから始まります。首都トランターの銀河図書

館で天才科学者ハリ・セルダンは、帝国は崩壊すれば太陽系ごと
に分裂、力による争いの絶えない暗黒時代に再び戻ると予測しま
す。彼は暗黒時代を最小限の千年間にして帝国を再興するため、
銀河宇宙の両端に、科学者を集めた二つの拠点「ファウンデーシ
ョン」を設置します。銀河図書館は帝国のあらゆる知見を集約し
たアーカイブとして描かれます。第一ファウンデーションは銀河
文明を継承する百科事典の編纂組織が大きな権限を持ちスタート
します。

物語の底流には「図書館」や「本」があり、暗黒時代を通り抜
け文明国家として銀河帝国を再興するには、過去の膨大な知見の
蓄積と未来への発展的継承が不可欠であるとの文明観があります。
アシモフは、ローマ帝国最盛期の一世紀「五賢帝時代」から十五
世紀の「東ローマ帝国滅亡」までを記したエドワード・ギボン
『ローマ帝国衰亡史』に刺激されたと明かしています。

『銀河帝国の興亡』初期三部作は、一九六八年以来三回翻訳さ
れています。コミックやドラマ(米国)もあり、今も根強い人気が



アイザック・アシモフ著 厚木 淳訳
『銀河帝国の興亡 1～3』
東京創元社刊 1968～1970
カバー：林 巳沙夫

あります。二〇二二年の最新訳は、日本のSF文学賞「星雲賞・海外長編部門」を二〇二三年に受賞しています。

映画『スター・ウォーズ』のジェダイ・アークアイブ

『銀河帝国の興亡』は、暗黒時代を経て再興された新銀河帝国の『銀河百科大事典』から帝国興亡史のエピソードを引用、歴史を遡って物語が進みます。『スター・ウォーズ』でお馴染みのオーピングロール [A Long time ago in a galaxy far, far away...] (遠い昔、遙か彼方の銀河系で...) も、過去を振り返る形で始まります。アシモフの影響を感じます。

ジョージ・ルーカス制作の『スター・ウォーズ』(一九七七年からの旧三部作、一九九九年からの新三部作)では、銀河共和国元老院議長、実は暗黒の存在「シス卿」が、皇帝に戴冠され帝国樹立を図ります。自由と正義の守護者「ジェダイの騎士」を中心とした共和国軍は、ダース・ベイダー率いる帝国軍と対峙します。『銀河帝国の興亡』とは異なり、帝国は力と独裁で銀河宇宙を支配する悪として描かれます。シス卿は、紀元前一世紀の共和政ローマ末期、帝政への礎を築いた独裁官ジュリアス・シーザーを思わせます。対するジェダイの騎士は、銀河宇宙の知性、理性を集積した「ジェダイ・アークアイブ」に支えられています。

映画『タイムマシン』のA I 司書

二〇〇二年公開の映画『タイムマシン』の原作者は「SFの父」ハーバート・ジョージ・ウェルズです。一九六〇年に続く映画化で、ウェルズの曾孫サイモン・ウェルズが共同監督を務めました。

天才科学者アレクサンダーは事故で最愛の恋人を亡くします。タイムマシンを発明し過去に戻り恋人を救おうとしますが、何度試みても彼女の死を避けることはできません。変えられない過去

を諦め、八〇万年後まで時空を旅して人類、地球の未来に出会い、未来は変えられることを悟ります。

彼は科学文明が滅亡した未来で、来館者がいなくなった「ニューヨーク公共図書館」を訪ね、人類の英知を守り続けるAI司書からレファレンスサービスを受けます。八十万年の歴史の流れ、文明の消長を、タイムマシンだけでなく「図書館」を通して知ることになります。

映画『図書館戦争』と図書館記念日

最後に訪ねるのは日本のSF作品です。二〇一三年公開の『図書館戦争』は「図書館の自由」を題材とした近未来的、仮想日本のお話です。原作は有川浩の小説で、二〇〇八年の「星雲賞・日本長編作品部門」を受賞、アニメ化もされています。

映画は「昭和が終焉し元号が改められた正化(せい化)元年(一九八九)、公序良俗を乱し人権を侵害するメディアの規制のため「メディア良化法」が施行されることから始まります。銃器使用も許される政府の「メディア良化隊」の激しい検閲に対抗するため、仮想「図書館法」第四章、通称「図書館の自由法」に基づき、武装した自衛組織「図書隊」が設立されます。この二つの組織は図書館管轄域内で、検閲をめぐり戦闘を繰り広げます。「図書館の自由法」には、資料収集提供の自由や、不当な検閲の反対など表現の自由、知る権利に関わることが定められています。

前述の三作とは異なり、知性を守る図書館が自ら武装します。これをどう理解するか、方向性の違う人権相互の対立と人々の無関心をどう考えるか、観る者それぞれに投げかけられています。



茅ヶ崎市立図書館・本館

物語は、ある図書隊士に憧れた少女が、正化三十一年(二〇一九)「図書隊」に入隊、様々な困難を乗り越え成長する姿を通して進みます。二〇一五年の映画二作目では、「図書隊」と「メディア良化隊」の武力闘争に対する疑問を秘めた文科省エリー

ト官僚が登場します。茅ヶ崎ゆかりの若き名優松坂桃李さんが怪演、主人公に立ちほだかります。

「図書館の自由法」は、日本図書館協会が一九五四年の総会で採択した「図書館の自由に関する宣言」をモデルにしています。宣言は現在も各地の公共図書館に掲げられています。さらに同協会は一九七一年、公共図書館の機能や無料原則を明記した「図書館法」の公布日「四月三十日」を「図書館記念日」に定め、図書

館振興をめざしています。「図書館記念日」を機に、市民に欠かせない知の拠点「茅ヶ崎市立図書館」の本館と分館に、改めて感謝の意とエールをお送りします。

【参考資料】

- 一 厚木淳「二つのクロニクルSFについて」アイザック・アシモフ著、厚木淳訳『銀河帝国の興亡一〜三』東京創元社、一九六八〜一九七〇

- 二 野口悠紀雄『「スター・ウォーズ」は、一九七〇〜八〇年代冷戦の落とし子』note、二〇一八
- 三 松井茂記『図書館と表現の自由』岩波書店、二〇一三
- 四 「図書館の自由に関する宣言」「図書館記念日」日本図書館協会HP、二〇二六・三月参照

「どんなもんぢゃ・モンナワンナ」と童話・童謡のはじまり

長谷川由美

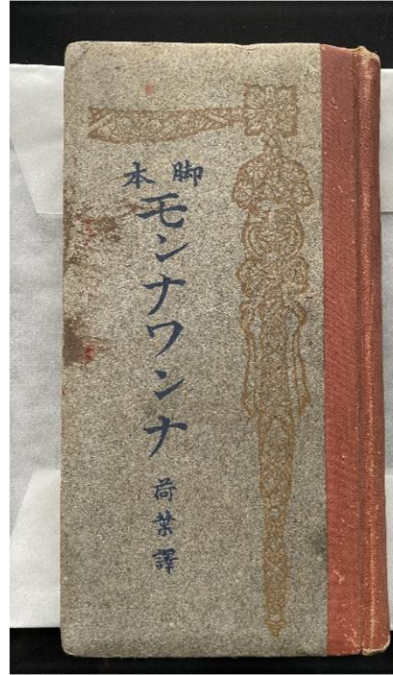
「どんなもんぢゃ？」と当時の人は、首を捻りました。「モンナワンナ」とは、日本語で「ワンナ(ヴァンナ)夫人」の意です。イタリア語の *ma donna* (マドンナ) は、「私の貴婦人」を意味する女性の敬称で、短縮形で *nona* (モナ) といい、そこに名前がついて「ワンナ(ヴァンナ)夫人」となります。絵画で有名な「モナ・リザ」は、「リザ夫人」ですね。

そして、「モンナワンナ」は、明治三十九(一九〇六)年に、川上音二郎一座が上演した演劇のタイトルです。今年の音貞オッペケ祭では、この戯曲を高砂緑地で、舞台も役者も緑地内を移動する回遊野外劇として上演します。

この戯曲を選ぶことになったきっかけは、原作者がモーリス・メーテルリンク(ベルギー)であることでした。メーテルリンクといえば、チルチルとミチルの「青い鳥」の作者として有名です。では、なぜ川上音二郎と貞奴夫妻を顕彰する音貞オッペケ祭に関係あるのか？

今年二〇二六年は、川上貞奴没後八十年、山田耕筰生誕百四十年のメモリアルイヤーです。子どものための演劇を日本で初めて上演したのも川上一座で、「お伽芝居」と称していました。貞奴が少年役を演じた写真なども残っています。また、山田耕筰は言うまでもなく童謡の巨人で、「赤とんぼ」は、茅ヶ崎在住時に書

明治三十九年春陽堂刊
「脚本モンナワンナ」
十五・二×八・四セ
価格三十銭



かれ、来年作曲
百年を迎えます。
今年は一童

話・童謡の(日
本の)は「じまり」
に着目しようとな
ったのですが、
川上一座の「お
伽芝居」の脚本

が見つかりませ
ん。同じタイト
ル、同じ筋の脚
本は現存し、文

字データにもなっていました。川上一座が上演したと言えるところがないのです。このような中、童話で有名なメテリリンクが書いた戯曲の日本初演は、川上二座の「モンナワンナ」であることがわかりました。貞奴創建の寺院、成田山貞照寺(岐阜県各務原市)にも、手書きの「モンナワンナ」の台本が残っています。

さらに、古書店で「脚本モンナワンナ」明治三十九年 春陽堂刊を入手することができました。ページを開いてみると、そこには

白耳義(筆者注 ベルギー) マアテルリンク 原作

日本 山岸荷葉 訳

(興行権所有者 川上音二郎)

と記載されているではありませんか！ この古書が手に入ったのも縁。上演しようとなったのでした。

物語は、一五世紀のイタリア、ピサ国が舞台で、隣国フロレンスとの戦いの真つ最中、ピサは陥落寸前。その時、持ち上がった和平の条件が、ピサ国將軍の妻「ヴァンナ夫人」をたった一人でフロレンス軍の將軍のもとへ行かせると言うもの。ピサ国民を救うため、この条件に応じたところから、まさかの展開が続いていきます。

興味深いのが、物語や風俗はイタリアのままなのに、登場人物の名前だけが、日本人の名前になっているところ。鬼洞將軍

↓ 鬼洞將軍

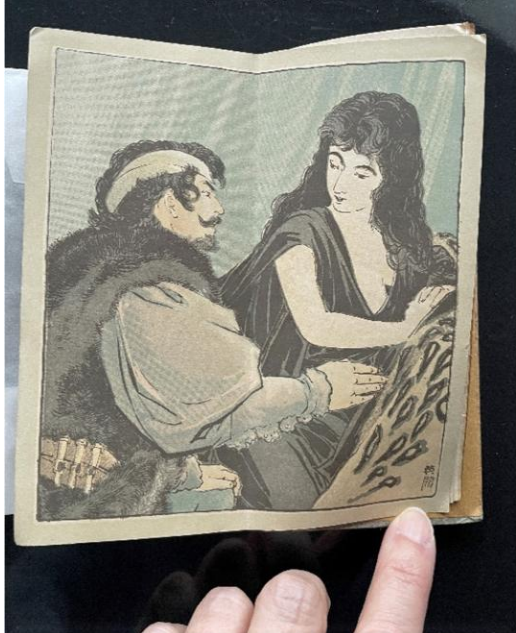
↓ 春那

↓ 龍池將軍

また、原作

にはない活気あるシーンがあります。ちなみに、島村抱月訳(大正二年・一九一三)の方が、原作に近いですが、身量も含めて、私は音二郎版が

「モンナワンナ」に挿入されている口絵



好きです…。

正直、結末がとってもムツカシイ話です。現代の私たちでさえ難しいのですから、明治の人たちは、「わからない、何のこったか、さっぱりわからない」、「どんなもんじゃ」と大混乱。大不評だったというのもうなすけるといふもの。当時の芝居の基本は、まだまだ歌舞伎。勸善懲惡、心中などが一般的でした。だからこそ、音二郎・貞奴の挑戦的上演であったのかもしれない。

どんな風に難しい幕切れなのかは、ご覧になってのお楽しみ。

そして、音貞オツペケ祭の今年の新たな挑戦として、「芝居の事前説明会」を開催します。これが、「芝居を百倍楽しむためのレクチャータイム・どんなもんぢゃ・モンナワンナ」。現代の「どんなもんぢゃ」です。

事前説明会は、主に視覚障害のある方を対象とした情報保障の手法で行われるもので、舞台上で、役者が自分の役柄、衣装の色素材、身長などを自己紹介します。これにより、登場人物の声と姿が音で表現され、ガイドの役割を果たします。また、舞台の大さを、歩幅と歩数で説明したり、ネタバレも含みながら、人間関係や、物語の端緒を話すことで、よりわかりやすく、楽しめる環境を作るものです。

音貞オツペケ祭の扱う戯曲は、百年以上前のものが主流です。セリフも、古風な言い回しで難解な言葉も多くあります。けれど、それが時代感を醸し出すので、できる限りそのまま使います。このような復刻劇の鑑賞に、「芝居の事前説明会」は、誰にとっても「芝居を楽しむ」ために有効に作用してくれるでしょう。

ステージイベントには、岐阜県各務原市で、貞奴の生涯を物語の核として創作オペラをつくっている団体の『創作オペラ「貞奴」プロジェクト』の方々も、遠路はるばる茅ヶ崎に来てくださって出演されます。「赤とんぼ」というタイトルの落語や、ハーブの演奏、全旨の方の日常をご本人が語る紙芝居。松籟庵では、お呈茶や、尺八・三味線の体験会、山田耕筰の童謡の歌詞を入れ込んだ物語の語りなど今年も盛りだくさんです。皆様のご来場をお待ちしております。

貞奴没後80年 山田耕筰生誕140周年記念

2026音貞オツペケ祭「童話・童謡のはじまり」

五月三十日(土)～三十一日(日) 会場 高砂緑地

入場無料・出入自由

*音貞オツペケ祭は、明治時代に、男女の役者が演じるセリフを中心とした西洋式演劇を日本で始めた川上音二郎と、その妻で日本の女優第一号となった貞奴が、高砂緑地周辺に住んで活動していたことから、二人の偉業を顕彰し、文化活動を盛り上げることを目指すイベント型エコミュージアムです。

ロンドンだより

スーパーとコーナーショップ 日本食売り場

昨年(二〇二五年)のことですが、九月二十一日、ロンドンはずっかり秋になり気温が下がっていました。古代の英国では、秋は収穫(ハーベスト)と、畑(ファーム)が豊作な年にはもろもろの感謝祭が行われたそうです。今も「ファーム」という言葉からは豊かな緑と金色の麦畑のイメージをすぐ思い浮かべます。私は小さい時、ファームのない首都ロンドンにある幼稚園で「Keep the countryside tidy, keep the countryside clean」(田舎をきれいにしておきましょう、田舎をクリーンにしておきましょう)と、皆でコーラスを歌うのが毎日の日課でした。

そのような英国では、ファームの大きさではなくても、お庭付きの家、あるいはベランダ付きのマンションに住んでいる人達は、何らかの果物や野菜やハーブを育てています。

我家でもプラムが豊作で、あらゆる使い方でやっとかたづけました。お酢につけたり、砂糖とレモンで煮込んでジャムにしたり、はちみつと混ぜてお肉のマリネにしてみました。やはり木から取ってそのまま食べるのが一番おいしかったです。日常生活の中、お食事は毎回プラムを食べるわけにはいかないし、獲物を狩る時代でもありませんので、スーパーに買い物に行くのは英

川村 恵 (在 ロンドン)



国も日本も同じです。これは何十年も変わらない習慣ですが、ただ、英国ではスーパーに置いてある品物は時の流れで変わります。私の近所のスーパーの Sainsbury's (セインズベリーズ) *1は去年改装工事をし、大きくなり、品物が増え、入口の野菜、果物のフロアの真ん中にはお寿司コーナーが新しくできました(写真①)。出来合いのお寿司と日本食を売っています。日本食はこのように

英国で人気です！
売り場を進んで行くくと「ワールドフーズ」のフロアにはカレー、豆腐、みそ、おしよ、



写真②

ラーメン、お蕎麦など自宅で日本食を作るのに必要な食材を売っています。八〇年代に両親が英国に永住した時と比べると思いがけない出来事だそうです。これほど日本食は愛されていて、英国の人たちの日常になじんでいます。大変嬉しい事です。

ところで、英国の大手デパート及びスーパーの Marks & Spencer (マークス&スペンサー)*2、Sainsbury's (セインズベリーズ)、Tesco (テスコ)*3は、ヴィクトリア時代(一八二七年から一九〇二年)ころに創立された時は家族経営の小さなCorner Shop (コーナーショップ)でした。英国の住宅街はハイストリート(商店街・繁華街)を中心に作られており、コーナーショップとは、ハイストリートの中にある小さな建物のお店です。肉屋さん、隣はパン屋さんなどの中の、角(コーナー)に大概あり、日常の必要品(紅茶、砂糖、新聞、ミルクなど)を売っています。(写真②)

私のハイストリートには珍しくコーナーショップが今も三つ残っています。しかし英国では一九五〇年代から、ハイストリートから離れて、駐車場もある大きな土地にスーパーマーケットが増えて来て、コーナーショップが減ってきています。その中で、コーナーショップも人を集めるた



写真④

めにもいろいろ考えて魅力的にしています。

ある高級住宅街の商店街のコーナーショップは小さいスペースにカフェも入れて、スーパーではない珍しい品物を集めています(写真③④)。それをよくよく見ますとキューピーマヨネーズが置いてあります! また「うま味」と派手に描いた調味料! こんなに小さいお店で、お客さんを呼ぶために日本食を並べているのを、私はどこまでも応援します!



写真③

うれしい気持ちで買い物から家に帰ると必ず「何を買った?」とチェックが入ります。我が家の猫です。スーパーではペットフードも迷うほどたくさん並んでいて、箱を読んで見ると「何時間も煮込んだ最上級の鶏肉」などどアピールしています。ひよっとしたら、人間より良いものを食



写真⑤

べているうちの猫は、すっかり獲物を狩ることを忘れていているようです。(写真⑤)

【注】

*1 セインズベリーズ (Sainsbury's) イギリスのスーパーマーケット。イギリス国内では、テスコ、アズダに次ぐ大手。

*2 マークス&スペンサー (Marks & Spencer) イギリスの老舗デパート。イギリス国内に300店以上を展開するほか、約30か国にフランチャイズ店を持つ。

*3 テスコ (Tesco) 世界最大級の食品小売企業の一つ。イギリス国内だけでなく、アジア、ヨーロッパ、北アメリカなど、世界各地で事業を展開している。

コッツウォルズとシエイクスピアの故郷

満開の桜(ピンク、白)と菜の花(黄)と麦畑(緑)と蜂蜜色の家々が彩る景色のコッツウォルズ地方(1)に行つて来ました。丁度、茅ヶ崎郷土会員の常名さんが来英しており、主人の運転で、二泊三日で回りました。明るい光を浴びて、どの村も青空の中、明るく輝き、地元の人達も私達を温かく迎えて下さいました。

川村美子 (在 ロンドン)

まず、アップパスローター(2)のホテルでクリームティー(スコーンにクロテッドクリームとイチゴジャムをつけて食べ、紅茶かコーヒーを飲みます)を楽しんでいると、隣のテーブルのイギリス人夫妻が声をかけて下さり、話が弾み、コッツウォルズの良さがますます分かりました。コッツウォルズの名前の由来は、



コッツウォルズの風景

の夜は、古い宿屋に泊まりました。床が傾き、部屋のお風呂の蛇口が壊れそうで、スタッフを呼んだら一生懸命直そうとしてみましたが、文句を言う気持ちにはなれなかったのも旅の愉しさの故でしょうか？

「羊のいる丘」の意味です。コッツウォルズの家の特徴は、蜂蜜色のコッツウォルズ石を使っている事です。バートンオンザウォータールー(3)に行くとき、川があり、かわい石橋が架かっています。子供が水遊びをしていました。そ

二日目は、ウイリアム・モリスが「イギリスで一番美しい村」と称した、バイブリー(4)に行き、アーリントンロウ(5)の前をゆっくり歩きました。そこは、十四世紀に羊毛の貯蔵庫として建てられ、十七世紀に住居として改装されたそうで、今も人が住んでいます。ゆっくり時が過ぎ、ずうっといたい気持ちになります。

ドライブ中に大渋滞に巻き込まれ、何かと思いましたが、動物園があり、三方向から車が来て、春休みで家族連れの入園順番待ちでした。車道で、何度も野生のキジが道路の真ん中に出て来て、当たり前のようにゆっくり渡るのを待たされました。小さい動物が挨拶に来たかのように道端に顔を出します。馬車道のようなくねくねの狭い道が続き、道標で確認して目的地に到着した喜びは、昔も今も同じでしょうね。

白鳥や鴨が気持ち良さそうに泳ぎ川辺で昼寝です。羊、馬、牛達も幸せそうに草を食べ、牧場の合間には菜の花畑が広がり、コッツウォルズストーンで積み重ねた素朴な塀が似合います。ウイリアム・モリスで有名なブロードウェイ村(6)は「コッツウォルズの宝石」と言われていますが、シェイクスピア



バイブリーのアーリントンロウ



アも作品で「自然が息づく場所」と表現しました。ここで、地元の夫妻が声をかけて下さり、常名さんはガールと言われ、ジェスチャーまじりで話した英語を上手と言われ、すっかり自信もつきました。人も息づく旅です。

その夜は、コッツウォルズ地方北端のストラッドフォード・アポン・エイボン(7)で泊まりました。三日目はシェイクスピアの生家、晩年の住まいなど歩いて回りました。茅ヶ崎の有名な川上音二郎は日本人で初めてシェイクスピア劇を上演していますが、ロンドンでもシェイクスピアを上演して好評で、当時のエドワード皇太子も観に来られたそうです。私は、英国在住者として、日本人が英国の各分野で活躍し、賞賛されている事に非常に光栄に感じます。ロンドンに戻る前には、ロイヤル・シェイクスピア・シアター(8)に寄り、川縁を散歩すると、今年最高の二四度の気温の中、シェイクスピアの銅像の近くで日光浴を楽しむ人達の多さに驚きました。この原点あればこそ世界中でシェイクスピア劇に関わる方々、観劇する方が多い

のも納得しました。私は茅ヶ崎郷土会に入会してから、英国と日本・茅ヶ崎の繋がりがどんどんわかり、嬉しくて感謝しております。

【補注】

- (1) コッツウォルズ地方 イングランド中央部に広がる丘陵地帯。特別自然美観地域に指定されている。
- (2) アップパースローター イギリスのコッツウォルズにある小さな村。観光地化されておらず静かで美しい風景が魅力。
- (3) バートンオンザウォーター コッツウォルズ地方にある「小さなベニス」と呼ばれる人気の水辺の村。
- (4) バイブリー コッツウォルズ観光で一番人気の村。コルン川の両岸に広がり、特にアーリントン・ロー地区の中世の石造りの家屋が有名。
- (5) アーリントン・ロウ コッツウォルズの観光スポット。
- (6) コッツウォルズのブロードウェイ村。美しい石造りの家々や歴史的な名所が点在する村。
- (7) ストラッドフォード・アポン・エイボン ウィリアム・シェイクスピアの故郷。シェイクスピアの生家や彼の妻アン・ハサウェイの結婚前の住処など歴史的な場所がある。
- (8) ロイヤル・シェイクスピア・シアター ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーが運営する劇場。シェイクスピア作品を中心に、同じ時代の他の劇作家による戯曲から現代の戯曲まで幅広く上演している。

短歌七首

朝の厨(くりや)に

前掛けの紐をしつかり結びつつ朝の厨に「元氣出さねば」

じゃが芋を茹でて昼餉のテーブルへマヨネーズそえて 戦時は塩振る

夕刊も手紙も来ない土曜日の夕風寒くうすら寂しき

雑草のなんとも律儀寒空に綿毛をとばすタバコの花

野スミレの小さくゆれる如月の寒さぬけたる昼下がりの陽に

ドクダミとスギナにさ庭おおわれて老いの細腕頼りにならず

生きていく私は老いつつ生きていく「ひとり老後」という本を読む

藤間克子 (新暦短歌会々員)

調査・史料・資料・論考

いまの言葉で

『大岡越前守忠相日記』を読んでみた④

野田 穂

古文書と歴史の素人が『大岡越前守忠相日記』の現代語への意訳を試みた第四回です。今回は、前回登場した忠相の孫、又吉の七五三のお祝いをした約二ヶ月後に、その弟が産まれていたことが書かれている日記(一部)と、忠相が関東地方御用掛として指揮した酒匂川(小田原から相模湾に注ぐ河川)の治水に関すること、従弟が亡くなったことが書かれている日記を読んでみました。

毎回解読にかなり苦戦しています。特に今回は⑤でほぼ座礁。読み解ける方は、ぜひ正解をご教示ください。

連絡先はこちら ↓本誌編集係の平野 (090-8173-8845・mail: f.nirano@ozzio.jp)

訳文中の()は注記、*は補足・補注です。(筆者調べ)

寛保二(二七四)年四月二六日*1 (忠相六六歳)

有章院様(七代將軍家継)の法事 中日*2 曇り時々小雨

(法事関連の記述がとても長いので一〜十三条省略)

⑭ 娘の所(娘婿の島津山城守久芬・ひさよし四二歳の家に、この度男の子が生まれ、今日はお七夜*3のお祝いの日だが法事のこともあったので、祝宴はせず内輪での祝いになった。命名の儀のこともあるので婿に連絡したところ、直吉という名前にしたと言っていると、今朝、東五から知らされた。

寛保二(二七四)年七月二日 (忠相六六歳)

① 十時 江戸城に出勤

曇

② 中務殿(本多中務大輔忠良・老中五三歳)へ、紅葉山の靈廟の屋根やその他所々の修復願いについて御霊屋坊主の岡部雲佐と高木久庵から出された書面と、武蔵国の滝山にある香衣檀林 大善寺*4の高僧が亡くなった届出、この間指示が済んでいる富士浅間神社の神領民*5である百姓の彦次右衛門が病死した届出を三阿弥*6を介して提出した。

③ 遠江殿(加納遠江守久通・御側七十歳)へ、今回の洪水でも酒匂川の岩流瀬(がらせ)と大口の堤防*7には破損も別条もなかった。趣絵図*8を一枚差し上げた。

④ 遠江殿へ、今回、青木昆陽が遠州(現静岡県西部および中部の一部)の方へ行った際に、大井川の修築工事*9の件について川尻村名主の井沢弥惣兵衛の父、惣大夫から申し出された趣意書一通を届けた。

⑤ 遠江殿がおっしゃるには、文蔵(青木昆陽)が提出した内の、台徳院様(二代將軍徳川秀忠)による書状は、三休宛になっていゝる。この三休という者は何者か。小笠原山城守*10の領地の者が(書状の)持ち主なので、三休のことは、左近殿(松平左近將監兼邑のりさと・老中五七歳)から山城守へお尋ねがあるはずだと(遠江殿から私へ)告げられた。左近殿にもその通り(遠江殿から)告げられた。(山城守に?)今日おいでになるよう昨日伝えたのは、このことを左近殿からお聞かせになるべきとお考えだったが、自分(思想)が直ちに山城守の所へ尋ねるよう(將軍吉宗から?)命じられたので、そのように引き受けよ、との旨について承知した。

⑥ これらが済んで十三時に退勤した。

⑦ 左近殿からお手紙を賜り、この間伺った川崎平右衛門が検地した武蔵野新田の続きの件は、伺った通り伝えるように、との旨を指示された。上申書作成を承るようにと、去る七月十九日に伊

予殿(本多伊代守忠統)ただむね・若年寄(五三歳)*11へ提出した検地の帳面一冊、伺い書き(稟議書)一通が一袋ある。

⑧ 昨日の七月二日に佐野与八郎*12が病死した。実は、従弟であり、うちに養子入りしている。服忌中*13ということとを届け出ていなかったが、今朝、中務殿(老中)へ、使者を介して届け出た。

【大岡日記原文】

寛保二年四月 (上巻 五六九〜五七〇頁)

御中日 廿六日 曇時と小雨

(十二条省略)

⑭一 島津山城守方三而此度之出生之男子今日七夜之祝儀御法事ニも候ニ付内祝ニ致候、名之義兼而山城守申聞候之間直吉と称可申由、今朝東五を以申達之

寛保二年七月 (上巻 六〇九頁)

廿二日 曇

①一 四時登城

②一 中務殿江紅葉山御霊屋屋根其外所と御修覆願岡部雲佐高木久庵差出候書付、武州滝山香衣檀林之内大善寺遷化御届書、此間御下知相濟候富士浅間神領百姓彦次右衛門病死之御届書二阿弥を以上之

③ 一 遠江殿江酒匂川岩流瀬大口堤此度之大水ニ茂御破損も無之堤無別条無之趣絵図一枚進達之

④ 一 御同人江青木文蔵此度遠州辺江罷越候節、大井川御普請之義ニ付遠州川尻村名主惣兵衛父惣太夫存寄申出候趣書付一通進達之

⑤ 一 遠江殿御申候ハ、文蔵さし出し候内台徳院様御書ニ而三休江之御宛所ニて候、此三休と申ものハ何者ニて候哉、小笠原山城守領分之物持主三候之間、左近殿方山城守方江三休義御尋有之筈ニ候旨御申聞、左近殿ニも右之通御申聞、其元今日出被居候様ニと昨日申達候ハ此義を可被仰聞と思召候之処、自分方直ニ山城守方江尋候様被仰出候間、左様ニ可心得旨被仰聞候

⑥ 一 右濟九半時致退出候

⑦ 左近殿方御手紙、此間相伺候川崎平右衛門見分為致候武蔵野統新田之義伺之通可申付旨被仰聞、承書上候様ニと去十九日伊与殿江さし出候見分書帳面一冊伺書一通一袋二遺之

⑧ 一 昨廿一日佐野与八郎病死、実ハ従弟二候之処我等等養子ニ此方江参候ニ付、忌服懸り不申候得共、今朝中務殿江右之訳書付使者を以御届申上候

〔補足・補注〕

・西暦は元号に対応。日付は旧暦。年齢は数え年。

*1 この四月二六日は、七代將軍家継の二七回忌法会の中日。結願(法事最終日)は四月二七日で、法事関連の事務記録が日々延々と記録されている。

*2 老中の松平乗邑は、四月十日に有章院(家継)二七回忌法会の総奉行を命じられた(二週間前に!)。家継は八歳で早逝しており、婚約者だった皇女八十宮(やそのみや)吉子内親王は、結納二ヶ月後の享保元(一七二六)年に、家継に会うことも江戸に行くこともなく三歳(現代の二歳未満)で未亡人になった。四五才で没。墓所は京都知恩院。旧東海道沿いの光明寺(三重県四日市市羽津町七二二)の山門前に八十宮御遺蹟碑がある。

*3 お七夜は、赤ちゃんが無事に生まれたことを七日目の夜にお祝いする行事。命名式とも言われ、江戸時代の武家でも親戚を集めて名前を披露し、盛大にお祝いした。『寛政重修諸家譜』に「某」とあるのが直吉と思われる。東五が誰かは不明。

〔筈〕二回で又吉の七五三を十一月ではなく二月に行った理由は、産後の大変さを考慮して、あるいは産後の穢れや方が一の服忌を避けたためか。

*4 武州滝山香衣檀林は、八王子市の大善寺(現富士見台霊園の管理元)。家康により僧侶養成の道場として設けられた関東地方

の浄土宗一八箇寺の一つ。香衣は紫衣に次ぐ法衣で、香衣檀林は紫衣檀林(増上寺、伝通院、大光院、弘経寺、光明寺)を除く十三の檀林。(神奈川県内の檀林は鎌倉市材木座の光明寺のみ)

*5 富士浅間神社の神領民(地元民)は年貢が減免されていた。

*6 三阿弥は、大岡日記の上・中・下巻に複数回登場する「順阿弥」「良阿弥」「常阿弥」のことか。詳細は不明。

*7 忠相は、この日記時点で既に約十六年酒匂川の治水に携わっていた。寛保二(一七四二)年は、八月一日に江戸も含め、関東

各地で甚大な洪水被害が起きた年だが、岩流瀬・大口の堤はこの水害にも持ちこたえている。

《宝永四(一七〇七)年十一月、富士山の「宝永大噴火」が発生。噴火から約七ヶ月後の六月、大雨によって大量の火山灰が酒匂川に流入し、上流の岩流瀬・大口の堤が決壊して、足柄平野の村々が土砂で埋まるという二次災害が始まった。復旧・決壊を繰り返した後、十五年ほど放置されていたが、享保十一(一七二六)年、「江戸町奉行」と「評定所一座(ひょうじょうしよ)いぢざ」訴訟を扱う幕府の機関を兼務していた「関東地方御用掛(かんとういぢかた)ようがかり」関東周辺の農政・治水担当の大岡忠相が、八代將軍・吉宗の命を受けて酒匂川の復旧を指揮。川崎の名主(村役人)である田中丘隅(休愚)に指示し、岩流瀬・大口の堤が再建されて「文明堤」と名付けられた。しかし、享保十六・十九(一七三一・三四)年に再び決壊し、下流域で約七十人が犠牲に。丘隅の娘婿で「地方巧者(じかたこうしゃ)・治水や灌漑事業等の技能を持つ者」と呼ばれた幕府代官の蓑笠之助(みのかさのすけ)蓑正高が引き継いで両堤の復旧工事を完成させた。その後、大口堤は二年間持ちこたえた。この七月二日の日記からは、「長年暴れ川で苦勞してきた酒匂川が約八年無事です！」と嬉しい報告を上司にしている忠相の様子が想像できる。》

*8 「趣絵図」がどのような体裁なのかは不明。

*9 大井川は度々洪水被害を起こして、江戸幕府は元文元(二七三六)年、大規模な治水工事に着手。大井川修築総監督として勘定吟味役(財政・農政の監査役)の井沢弥惣兵衛為永(元文三年没)を現地へ派遣。元文三(二七三八)年にも氾濫し、息子の楠之丞正房(後に弥惣兵衛と名乗る)が寛保元(一七四二)年七月江戸に帰って、この水害を報告した。つまりこの日記の弥惣兵衛は楠

之丞正房で、四年前に亡くなった父惣太夫(為永)の生前の意向が書かれた書面が届けられたことになる。

*10 小笠原山城守は、掛川藩主 小笠原山城守長庸(ながつね)か。《この頃、日本左衛門(歌舞伎「百波五人男」)の日本駄右衛門のモデルが東海道の掛川周辺を荒らしていた。》

*11 若年寄の本多忠統は、享保の改革期に松平乗邑(左近殿)とともに吉宗を助け改革を推進した人。吉宗に重用された儒学者荻生徂徠(おぎゅうそらい)の高弟で、全一七巻の詩文集「猗蘭台集(いらんだいしゅう)」を残し、文人大名として知られていた。

*12 佐野与八郎は、忠相の実父・忠高方の従弟。母は、大岡忠章の娘で、忠高の妹。与八郎の諱は政春。

*13 服忌とは、近親者の死にあたり喪に服すること、またその期間。古くは儒教の古典にはじまり、日本にも律令制度の一環として入ってきた。江戸時代になると幕府は「服忌令(ぶつきりよう)」として整備・制定し公布。Q&A方式などに編纂された「服忌書」も多く出回っていた。元文元(一七三六)年、八代將軍・吉宗は五代將軍・綱吉が制定した「服忌令」を改正。当時養親子が非常に多かったので、あらゆる複雑な親族関係にも忌引日数を導き出せるようにした。この完成版は幕末を経て明治政府まで引き継がれた。

《この七月二日の日記の内容に関係している青木昆陽、川崎平右衛門、田中丘隅、蓑笠之助は、歴史学者の大石学氏が「大岡グループ」と名付けている、忠相を「御頭」と呼ぶ役人集団の主要メンバー。》

【参考資料】

- 『大岡越前守忠相日記』上・中・下巻 大岡家文書刊行会編纂
／三二書房 一九七二～一九七五年
- 寛政重修諸家譜 卷第一輯 六六九～六七〇頁 清和源氏 為義流
島津／国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pld/1082717/1/3454>
- 『浄土宗の教え…歴史・思想・課題』知恩院浄土宗学研究所
編／山喜房仏書林 一九七四年 五一頁
- 『全棟寺史』全棟寺史編纂委員会 編纂／全棟寺 一九八五年
六四頁
- 石碑・道標等／羽津地区 <http://hazu.org/syokai-sekihri.html>
- 関東十八檀林一覧／法然上人浄土宗開宗850年特設サイト
<https://850.jodo.or.jp/kantoh8danrin/>
- 『東照宮神領の研究』長倉肇／神道神学研究会 一九七四年一
三二頁
- 『大岡越前守遺跡写真集成』大岡越前守奉賛会（茅ヶ崎商工会議
所内）一九七〇年二六～二七頁
- 『酒匂川…酒匂川の沿革と氾濫の歴史 特集号』酒井茂男／酒
匂川水系保全協議会 一九七五年三九～四二頁
- 『広報ぼうさい』第二七号 十八頁「過去の災害に学ぶ 宝永
四年富士山噴火」／監修 内閣府防災担当 二〇〇七年一月号
- 口絵11 享保五（七二〇）年相州酒匂川本通川除御普請御
願絵図（写）／内閣府防災情報の頁
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyokunmokei/shou/rep/1707_houei_fuji_san_funka/pdf/1707-houei-fuji-sanfunka_02_kuchie.pdf

○『災害の教訓【火山編】』中央防災会議 災害教訓の継承に關する専門調査会
<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyokunmokei/shou/14/pdf/shiryoud.pdf>

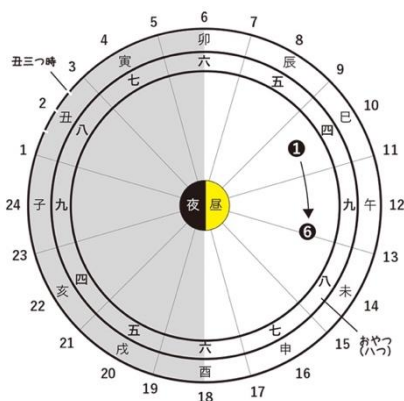
○『郷土神奈川 12』神奈川県立図書館企画サービスポ地域情報課 編／神奈川県立図書館 一九八二年三九～四〇頁

○『川崎平右衛門と武蔵野新田開発』將軍吉宗・大岡越前のもと
の享保改革』大石学／第20回たちかわ読書ウィーク講演会
資料二〇二五年十一月

○『静岡県吉田町史 中巻』静岡県榛原郡吉田町史編さん委員会
編さん／吉田町教育委員会 一九九三年 二一四～二一五頁

○『掛川市史 中巻』掛川市史編纂委員会 編／掛川市 一九八四
年 九四二頁

○『東海の先賢群像』岩田隆／桜楓社 一九八六年二〇四～二〇
五頁



寛保2(1742)年7月22日

- 『新編鈴鹿市の歴史』仲見
秀雄、前川信雄／鈴鹿青年会
議所 一九七五年 一一六、
一一七頁
- 『近代服忌令の研究』幕藩
制国家の喪と穢」林由希子
／清文堂出版株式会社 一九
九八年 十四、四〇、五一、
五四、六九、七七頁

茅ヶ崎郷土会の事業報告

第三二六回 史跡・文化財めぐり

市内の萩園・今宿を訪ねる―八王子道に沿って―

平野文明

日時 令和八年二月二十一日(土) 参加者 一四名
見学コースと見学ポイント

【萩園(はぎその)地区】①十二天神社―②八幡神社―③常願寺
―④南チヨウウのサイノカミ―⑤三島神社―⑥日枝神社跡―⑦
和道家墓地―

【今宿(いまじゅく)地区】⑧花女郎道―⑨松尾神社
茅ヶ崎駅北口から路線バスで萩園地区のバス停「番場」まで
行った。バス停のすぐそばを東西に通じている道路は旧道だが、
拡幅されて昔の面影はなくなっており、さらに西に向かつて工事
が進められていた。

なお、この日の探訪のために『市内の萩園・今宿を訪ねる』と
いう資料集を作って参加者に配った。いずれ当会のホームページ
にも掲載する予定。

八王子道 今宿地区にある上国寺(今宿四八八)の東側で、国道一
号(元は東海道)から分かれ北に延びる道路は八王子道(はちおう
じみち)と呼ばれていた。南湖のボテフリ(棒手振り)天秤棒の前後
に魚籠を下げて売り歩く魚の行商人が八王子近辺まで売り歩いた道
と伝えられている。東海道との分岐点辺りは江戸時代の今宿村
で、その北側は萩園村、さらにその北側は現在寒川町内になつて

いる田畑村だった。

今宿地区は令和七年六月十四日に、第三二三回史跡・文化財め
ぐりで訪ねていて、会報『郷土ちがさき』一六四号(令和七年九
月一日刊)に報告がある。

萩園という地名 市内では他より早くから現れている。鎌倉時
代、文永八(一二七二)年の史料に、懐島(ふところじま)と萩會
禰(はぎそね)の境は、現在寒川町内の「多のきと」の川流れを
ただして…と出ている。「そね」は石交じりの痩せ地を意味する
と言われている。

①北ヶ谷の十二天神社 北ヶ谷とは小字(こあざ)の名。バス停



萩園 北ヶ谷の十二天神社

から工事中の道路をたどる
と最初の見学ポイントがあ
る。萩園村の鎮守は⑤で訪
ねる三島神社なので、この
十二天神社はチヨウナイで
祭るものだろう。以前は大
木に囲まれた薄暗い中に社
殿があつたが、切り払われ
て様子が違っていた。

『新編相模之国風土記
稿』(以下『風土記稿』と記す)
の萩園村には「古(いにし
え)の地頭(江戸時代の萩園村
の領主の一人) 遠山平太夫某

勸請す」とある。神社には元禄十六(一七〇三)年の棟札があり、それによれば村内の真言宗満福寺が別当寺だった。境内には、元禄六(一六九三)年銘の破損した石燈籠、元禄七年(二六九四)銘の庚申塔がある。これらのことから神社が勸請されたのは元禄年間(一六八八〜一七〇四)だったことが分かる。また、カミチョウで祭る安政五(一八五八)年銘のサイノカミ(道祖神)も祭られている。

○**番場の共同墓地に並ぶ戦死者の供養塔** 十二天神社から次へ向かう途中に、道路に沿って共同墓地がある。墓石よりひととき大きな石碑数基が全て道路に向けて立ててあった。参加者から「あれは何だろう」という疑問が寄せられ、ああではない、こうでもないの発言があつて、戦死者の供養塔であることに落ち着いた。さらに、なぜ道路を向いているのだろうかという意見が出て、こういう論議があることこそ史跡めぐりの醍醐味だと筆者は思った。

②**番場(ほんば)の八幡神社** 何時の頃からかここに祭られていた三基の石祠(せきし)が、明治四十四(一九一一年)年に鎮守の三島神社(⑤)に移された。太平洋戦争のあと、この地に移り住む人が増えて、この三基の石祠を再度この地に戻し、八幡神社として祭った。社殿の中にその石祠があり、中央のものに「若宮八幡」とあるそうだが、社殿の外からは良くは見えない。



八幡社に祭られている神々

ない。鎮守に移したのは明治三十九(一九〇六)年の神社整理によるものと思われる。

○**共同墓地の板碑の破片** 八幡社から次へ向かう途中、個人墓地内に破損した板碑があるはずということで寄ってみた。たまたま所有者が掃除中で、その破片を見せてもらえた。この墓地を近く始末するのだが、板碑をどのようにしたのだろうかかと相談を受けた。すでに報告書にも掲載されているものだが、一応市の博物館に連絡するとして、加藤会員が連絡の労をとられた。

③**西ノ谷の日蓮宗 本立山常願寺** 萩園一四四一 『風土記稿』には「開山 日澄、嘉暦元年(二三三六年 鎌倉時代) 八月卒」とある。

茅ヶ崎市指定の重要文化財、木造日蓮坐像が祭られている。像の台座に「大永七年(一五二七 室町時代)」の銘がある。私たちが寺に到着したとき、本堂で行われていた法事がちょうど終わり、御住職の計らいでこの像を拝むことができた。お像は綿帽子を被っておられた。日蓮聖人が、出生の地、安房小湊(現千葉県鴨川市)に戻られたとき、襲われて頭傷を負われた。これを小松原の法難という。そこに老婆が現れて傷を守るための綿帽子を進ぜたという出来事に基づく綿帽子だと、ご住職の説明があつた。

常願寺は昔から、養蚕の守り神として子の権現(ねのこんげん)を祭ることで近郷に知られていた。江戸時代までは近くの「権現」と呼ばれる所にあつて、明治元(一八六八)年に移されたと言われている。像は、お前立と秘仏の本尊の二体があり、本尊は、棟札の銘の「明和三(一七六六)年」のころ作られたと『茅ヶ崎市史』3に書かれている。また境内に、「宝暦七(二七五七)天六月/子大権現」とある手水鉢もあるので、子の権現の勸請は

宝曆・明和の頃だと思われる。子の権現は子の年にお開帳され、午の年にも中開帳されてきた。

子年待つ子之権現や水温む

本堂の裏手に、境内各所にあつたという五輪塔が十基ほど並べてある。その左端には「宝徳四(一四五〇)年七月五日」の年銘がある小型の宝塔が置かれている。この宝塔を発見したのは茅ヶ崎郷土会の先輩、故天ヶ瀬恭三氏で、この形式の宝塔は十六世紀につくられたものが多い中、それより百年ほど古く、貴重だと天ヶ瀬氏は報告している。

萩園学校跡の碑 明治五(一八七二)年学制が發布され、村々に公立学校が建てられる。碑には「明治七(一八七四)年、常願寺に詳恭学舎設立(略)、明治十(一八七七)年六月萩園学校と今宿学校合併、今宿に台小學校設立」とある。碑は昭和五十五年に萩園自治会、萩園笑寿会、郷土会萩園有志で建てられた。

④南チヨウのサイノカミ 萩園一四一六 萩園にはカミチヨウ、東チヨウ、南チヨウ、辻チヨウ、サンヤ(三谷)の五つのチヨウナイがあり、それぞれサイノカミを祭っている。その中で建立年銘が最も古く



南チヨウのサイノカミ

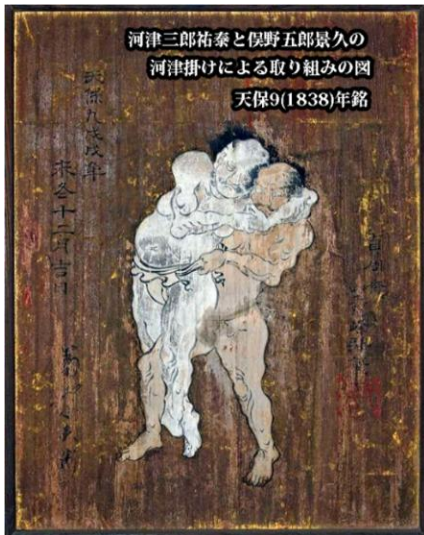
明和七年(一七七八)

(明和七年：一七七〇)、他のものはすべて文字塔であるのに比べ、男女双体のサイノカミが浮き彫りされている。

⑤根下の、萩園の鎮守三島神社 萩園一七一九 「根

下」は小字の名。『風土記稿』に「村の鎮守なり、満福寺持」とあり、江戸時代は真言宗満福寺が別当寺だった。祭神は大山祇命(おおやまつみのみこと)。

源為朝凶絵馬 拜殿内に掲げているので見ることはできないが、茅ヶ崎市的重要文化財に指定されている。絵柄は、弓の名人の為朝の強弓を鬼が引こうとしているところ。「東川斎桂山筆」「天保七(一八三〇)年」の銘がある。桂山の作品は海老名市、相模原市、平塚市に残ると、社殿前にあると説明板に記されている。また、天保九(一八三八)年銘で、相撲の技河津掛けの凶の絵馬と、大正八年(一九一九)銘の、天岩戸が開けられ天照大神が姿を現す凶の絵馬もある。



河津三郎祐泰と伊野五郎景久の凶河津掛けによる取り組みの図 天保9(1838)年銘

石燈籠 明治十五(一八八二)年建立で、竿石の裏に「権田直助謹書」とある。権田は神仏分離直後の混乱する阿夫利神社の神官を勤めた。謹書した文字は竿石表面にある「獻燈三島神社大前」だと思われる

萩園に関する人物の記念碑が境内に三基ある。(1) 仮名垣魯文の碑 魯文は明治時代の戯作者・新聞記者。父親は萩園出身で江戸で魚屋をしていた。魯文も一時萩園で暮らしたそうである。(2) 山宮藤吉の碑 萩園出身の政治家。

(3) 加藤勝五郎の碑 明治十(一八七七)年、西南戦争に従軍し、終戦後凱旋中に病死。

石橋の石 村内の石橋に使われていたという長方形の大石が境内に置かれている。横になっている二枚は番場で小出川に架かっていたと、小型の二枚は村の中央部の「石橋」と言われる所のものと説明板にあるが、「石橋」の場所が分からない。小型の石には「元禄十四(一七〇二)年三月」と彫ってあるそうである。

⑥ 辻西の日枝神社跡 萩園二三四〇 萩園には「辻西」「辻東」の小字がある。本市で「辻」の地名は室町時代から現れており、萩園のこの地を指すと考えられている。

かつて辻西には日枝神社の社殿があつたが、取り払われて更地になっていた。社殿の跡には元のままに礎石が残されていて、建物の大きさが分かるようになっていた。その礎石に五輪塔などの部位石が使われていたのが興味深い。

また庚申塔が建てられている。かつて社殿の中に御神体として祭られていたもので、年銘は「寛文二(一六六二)年正月吉日」。

江戸時代の石仏の中で寛文の年号を持つものは、その初期のもので貴重である。塔の正面には「南無妙法蓮華経 山王大明神」、

「施主辻村 惣且方中 常顕寺日鏡敬白」の刻字がある。「日鏡」は常顕寺の十一世で、没年は延宝五(一六七七)年らしいが、中興の祖といわれている。塔の石質は堅く、肉厚、半肉彫りの見える間かざる言わざるの三猿の彫りも良い。市の重要文化財に指定される価値は十分にあり、露天に置かれているのが惜しい。

石仏や読めぬ字のあり春うらら

跡地には「天保十三(一八四二)年」の年銘と、ひげ題目の「南無妙法蓮華経」、さらに「道祖神」と刻字されたサイノカミの文字塔も残してあつた。これも常顕寺が関与して立てられたものであろう。

⑦ 和田家墓地 萩園二三三七 市内堤地区にある民俗資料館旧和田家住宅は萩園の和田家の母屋を移築したものである。和田家十一代和田清右衛門が嘉永七(一八五四)年から安政二(一八五五)年にかけて建設し、昭和五十七(一九八二)年に寄贈、同六十年に移築竣工、公開となった。和田家の墓地には清右衛門を含む歴代の墓石が祭られている。

○今宿村 和田家墓地から、今は住宅地の中を通る旧道を南下すると江戸時代の今宿村に入る。今宿の地名は江戸時代にならないうと出てこないが、室町時代に遡る信隆寺、上国寺という日蓮宗の寺院があり、共に市指定重要文化財の日蓮聖人坐像を祭っている。江戸時代に、幕領として村が始まり、宝暦十二(一七六二)年から馬場氏が領した。

⑧ 花女郎道 『明治十二年皇国地誌村誌』(以下『皇国地誌村誌』という)の今宿村の項に、「小字を台という畑の中に首無し塚がある。その高さは六〇呎、周囲は七く九呎で八王子道に面している。このことから花嫁行列は八王子道を通らず、鎮守 松尾神社の西側の畑の中の道を行き、その道を花嫁路という」とある。地元では花女郎道といい、私たちはこの道を通って最後の見字ポイントの今宿の鎮守松尾神社に向かった。

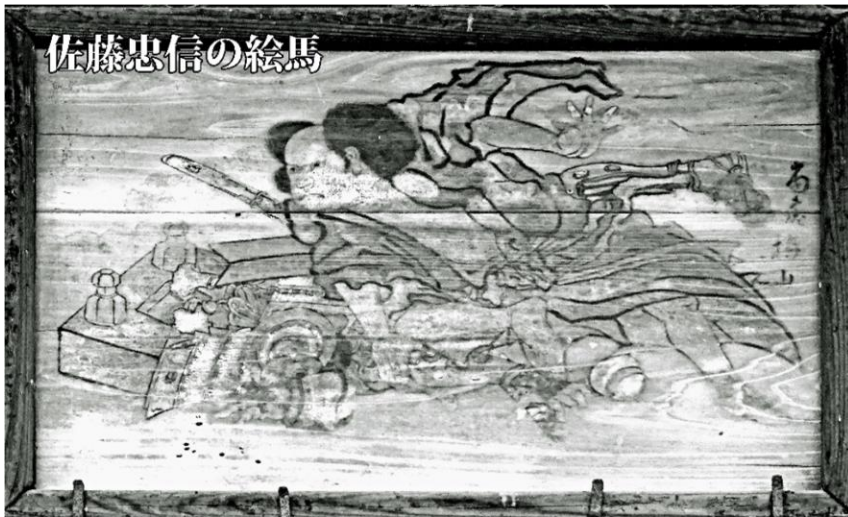
⑨ 台の松尾神社 今宿五八六 神社がある地の小字を台という。神社は八王子道に面している。『風土記稿』の今宿村に「山王社、村の鎮守とす、仏国寺持」とあり、『皇国地誌村誌』には

「松尾大神、大山咋命(おおよまくいのみこと)・月読命(つくよみのみこと)の二神を奉祀す」とある。このように社名が変わったのは明治初年の神仏分離のときと思われる。それにしても山王社を松尾大神と変えたのはなぜか。『風土記稿』には祭神名が書かれておらず、『皇国地誌村誌』には大山咋命とある。考えてみるに、山王社の総本宮は滋賀県大津市の日吉大社で、主祭神は大山咋神、また京都の松尾神社の祭神も大山咋神で月読命も祭っている。今宿では、神仏が習合している山王社を止めるに当たり、同じ神を祭る松尾神社に乗り換えたのではなからうか。

絵馬 戦う佐藤忠信の図 社殿の庇の下に掛けてあり見ることが出来る。忠信は義経の四天王の一人。京都に潜伏中襲撃を受け自害した。絵柄は襲撃を受けている場面。なぜこの絵馬があるのかは分からない。

石祠型のサイノカミが八王子道側を向けて、境内の出入り口に祭られている。サイノカミで石祠型は珍しいが、祭神銘も年銘もないので、サイノカミとして作られたものかどうかは分からない。

震災記念碑 関東大震災の惨状と、その後復興に尽力して四年経って社殿再建がなつたと記してある。「昭和一(一九二七)年四月一日 出口彦太郎謹誌」とあり、裏面には氏子の名が連ねられている。



佐藤忠信の絵馬

臺(台) 小学校跡の碑 今宿の学校は、明治初めに中川清蔵の私塾に始まり、同四十二(一九〇九)年の尋常高等鶴嶺小学校の成立までの略歴が刻字されている。
慰霊碑 日中戦争中の昭和十三(一九三八)年から同二十一(一九四七)年までに戦死した人たちの名前を連ねた慰霊碑。

最後に 天気の良い半日だった。お昼には終了する予定が、時間延長してしまった。松尾神社で解散するまで事故もなく、これで令和七年度に計画した四回の史跡・文化財めぐりは無事に終了することができた。参加された方々、ご協力いただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

【引用・参考文献】

- 〈1〉『茅ヶ崎市史』1資料編(上) 昭和五二年茅ヶ崎市刊
- 〈2〉『新編相模国風土記稿』萩園村・今宿村『茅ヶ崎地誌集成』平成一二年茅ヶ崎市刊所収
- 〈3〉『萩園のうつりかわり』平成五年萩園郷土史勉強会(編集責任者 野崎薫)刊
- 〈4〉資料館叢書13『茅ヶ崎の石仏1鶴嶺地区』平成一七年茅ヶ崎市文化資料館刊
- 〈5〉『茅ヶ崎市史』3考古・民俗編 昭和五五年茅ヶ崎市刊

- 〈6〉『郷土ちがさき』一六号(昭和五十一年一月刊) 所収天ヶ瀬 恭三筆「常願寺の宝塔基礎」
- 〈7〉『茅ヶ崎を彩った70人』二九年茅ヶ崎市刊
- 〈8〉資料館叢書10 塩原富男著『茅ヶ崎の記念碑』平成三年茅ヶ崎市文化資料館刊

「市内の萩園・今宿を訪ねる」に参加して

茅ヶ崎市香川在住 染谷倫人

今回は自宅から自転車を使つて現地に行き、自転車を引きながらめぐりに参加しました。十二天神社に自転車を止め、番場のバス停で本体に合流しましたが、今回は女性が多いなと感じました。めぐりを通じて熱心にメモする姿に郷土会に歴女の時代が来たかなと思いました。

私なりに感じたことを俳句と文章にまとめてみました。

春日美す祠の陰に五輪塔

庚申塔や道祖神がこのエリアもあちらこちらにあり、往時の庶民の信仰心がうかがい知れました。また茅



番場 八幡神社境内の五輪塔など

- 〈9〉宮川元二編『常願寺史―この地と子之権現のあゆみ―』令和五年刊

ヶ崎には神仏習合の影響が多く見られますが、神社に鐘、寺持ちの神社など他にもましても多いと思いました。

そして、神社やお寺、道祖神を祀った祠の陰に五輪塔を多く見かけました。横になったものや石が崩れたものもありました。五輪塔といえば、鎌倉の和田塚を訪ねた時に、二十基ほどあったことを思い出しました。和田塚では無念の死を遂げた和田一族に思いをはせました。今回は、一か所に大量の五輪塔があったわけではありませんが、ここにもあそこにもといった感があり、私にとつて今回のめぐりは、「五輪塔めぐり」の萩園・今宿と感じた一日でした。

あたたかや今昔語る和尚の目

常願寺で詠んだ俳句です。住職が温顔で、ご苦労された話をさりげなく語られ、また寺を訪れる方々への心配りがとても素敵でした。郷土会のめぐりは土曜日の午前中に行われことが多いので、法事とぶつかると、ご本尊を拝むことができませぬ。

今回、法事の直後といったタイミングで常願寺さんに伺いました。ご本尊を拝観するのは難しいかなと思っていたところ、庫裏から

住職が声をかけられ本堂にあげていただきました。



綿帽子をかぶる蓮聖人の坐像

ビス精神そのものでした。今回は、里桜とアーモンドの木を植えるなどサード

街角の日枝神社址風光

路地を進んでいくと突然住宅街が開けました。一面コンクリートで、その右奥に道祖神があり、真ん中の奥には三猿の庚申塔が立っていました。庚申塔の周りに礎石らしき石が点々とあり、日枝神社の社があったことがうかがえました。



辻西 山王社跡の山王大明神

う季語がぴったりと感じて前出の俳句となりました。

春彼岸住宅街の旧家墓地

日枝神社の斜め向かいに和田家の墓地がありました。堤の民俗資料館にある旧和田家住宅は、この地から移築されたとの説明を聞き、なぜか親近感を覚えました。民俗資料館の駐車場で子や孫と一緒に花見をすることが何度もあり、そのたびに旧和田家住宅に足を踏み入れているからかもしれません。

また、和田清右衛門さんご夫婦の墓碑のある墓地を見学後、道路を右に曲がったところに、「和田」と名のあるりっぱな新しい墓地が五つほど続いています。もともと墓地の周りに住宅ができたために、茅ヶ崎の住宅街に突然墓地が現れる感があります。

住宅街に空いた土地があると公園か住宅建設前かと思ってしまう私にとって何か不思議な空間でした。日差しが存分に差し、風が通り抜ける場所、見えない風が見えるようなすがすがしさに、風光るとい



しかしながら、それぞれの墓地に奥行きがあり、大きく整然と並んでいるため、墓地の存在感が強く、墓地と言うより墓園的なイメージがありました。本来のめぐりで見るところでないところに目の行った私でした。

今年度からは史跡・文化財めぐりは一回減って年三回になると帰りに平野会長から説明がありました。前年度以上に一回／＼を大切にして事前勉強会と本番に備えようと思います。スタッフの皆さまよろしくお願ひします。

茅ヶ崎郷土会へのお誘い

郷土の歴史と文化・自然などを好きな会員が楽しみながら活動しています
郷土を歩き、学び、発信して、楽しみながら仲間づくり
会員は60名ほど
一緒に活動しませんか

活動の内容

- 歩く 市内・県内の史跡や歴史や文化財を訪ねてまち歩き
- 学ぶ 市内・県内の史跡や歴史や文化財の学習
『茅ヶ崎市史』通史編の輪読
- 発信 会報「郷土ちがさき」年に3回発行
会報への投稿
俳句、短歌、エッセイ、本の紹介、論考など

年会費 1,500円
会長 平野文明
連絡先 090-8173-8845
e-mail f.hirano@ozzio.jp

令和8年度 茅ヶ崎郷土会の事業予定

史跡・文化財めぐり

- ①10月10日(土) 317回鎌倉党ゆかりの地を訪ねて(第1回)
横浜市に長尾氏の遺跡探訪(長尾城址・俣野観音堂など)
- ②12月12日(土) 318回茅ヶ崎市内の探訪(場所未定)
(ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会 案内)
- ③令和9年2月20日(土) 319回茅ヶ崎市内の探訪(場所未定)
(ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会 案内)

歴史・民俗の学習会

- ①7月11日(土) 「茅ヶ崎の地名」 お話 平野文明郷土会々長
会場:茅ヶ崎市民文化会館 第一会議室 10:00~
- ②9月19日(土) 史跡・文化財めぐり 事前学習会
「鎌倉党ゆかりの地を訪ねて(1) 横浜市 長尾氏の遺跡」
お話 山本俊雄・木村 宏 会員 市民文化会館第一会議室 10:00~
- ③令和9年2月13日(土) お話 加藤幹雄会員(テーマ未定)
会場:茅ヶ崎市民文化会館 第一会議室 10:00~

会報『郷土ちがさき』の発行

○166号 5月15日発行 ○167号 9月1日発行 ○168号 R9年1月1日発行

『茅ヶ崎市史』通史編の輪読会

4月7日(通算19回目)を今年度初回として、毎月第一火曜日の13:30から原則市立図書館本館でおこなっています。

郷土会写真展(66回茅ヶ崎市民文化祭に参加して実施)

日時 11月13日(金)~15日(日) 会場 市民文化会館A展示室
テーマ ○史跡・文化財めぐり ○茅ヶ崎の風景など

令和8~9年度 役員
 会長 平野文明/副会長 熊澤克躬/事務局長 井出康夫・熊澤克躬/会計 山本俊雄/監事 平井恵美子/相談役 尾高忠昭
 同 運営委員 井出康夫/加藤幹雄/木村 宏/熊沢克躬/平井恵美子/平野文明/森 早苗/山本俊雄

『郷土ちがさき』166号正誤表

- 6頁 下段 5行目 キルトを来て ↓ 着て
- 8頁(執筆者名) 長谷川由美 ↓ 長谷川由美
- 11頁(短歌) 七首目を追加
- ちよつとしたことをつい先延ばし貰いし渋柿まだ吊るせない
- 23頁(上段) 14行目 松平定信の実父 ↓ 田安宗武は松平定信の実父
- 30頁(上段) 最終行 ⑫ 西木戸 ↓ ⑫ 西木戸
- 33頁(下段) 7行目 駅前にある三人 ↓ 三基
- 33頁(下段) 14行目 三名水 ↓ 三名井
- 37頁(上段) 本文1行目 十二月十四日 ↓ 十二月十三日

【編集後記】

AIで、文章を書く、絵を描く、作曲するなどが身近で行われる時代です。私たちの仲間にも、AIに質問して、その質問とAIの返答を交互に文字化した人が現れました。お断りしておきますが、筆者はその事を非難しているわけではありません。質問の内容とAIの返答が知りたいのです。AI活用は今後増えることでしょう。返答は正解だったか、間違っていたかへの興味です。意味不明の言葉に出会うと辞書を引きます。しかし、その言葉が一部でしか通用しない業界用語だったりすると辞書だって間違っていることもあります。

本誌編集者として不安なのは、AIが提示してくれたことを繋いで作られた文章が個人名で投稿されたとき、私は見抜けるだろうかということです。
(令和八年五月九日)